

## 平成27年度(2015年度)中・高年安全登山指導者講習会(西部地区)参加報告

期 日： 2015年11月28日～30日

場 所： 京都府立 ゼミナールハウス(座学) 京都北山周辺(実習実技)

参加者： 60名(西日本地区23府県より) 岡山(2名) 沖縄(4名)等

講師 サポーター 主催者： 26名 (主催者 日山協 京都府山岳連盟)

来年度開催県/再来年度開催県： 徳島県(2016年10月8～10日)/山口県

開会挨拶 要旨： 第3次登山ブーム 「登山者でなくて登山客の急増」

2016年8月11日 国民の祝日 山の日 制定される。

### (講座Ⅰ)：山岳事故からみる中・高年登山の現状と問題点

山岳事故の問題点 ①道迷い ②単独登山 ③登山計画書がない、(何処にいったか不明)

単独登山は道迷い事故がダントツで多い。山岳事故の1/3は道迷い、1/3は転倒滑落、1/3はその他。

単独登山をなくすれば山岳事故は1/3減少する。

単独登山を減らす為何ができるか？ チラシ配布、自治体、各種団体の講演会、登山教室。

人は人とのふれあい、関わり合いを求めている。

### (講座Ⅱ)：山岳気象の基礎と気象遭難(観天望気) 講師：猪熊 隆之(ヤマテン社長)

雲とは、水蒸気を含んだ空気(湿っている)水滴と氷の粒、上昇すると雲になる。

上昇気流の発生は、1)山の斜面 2)前線、風と風のぶつかる処 3)低気圧や台風を中心

4)地面が暖められた処

山の天気は崩れやすい。上昇気流が発生するから、山の斜面を水蒸気を含む空気が登っていく。

山があると谷風と山風が発生する。日中は谷風(反時計まわり)、夜間は山風(時計まわり)。

気圧とは、空気が押す力。等圧線の間隔が狭い処は風が強く、広い処は風が弱い。

風向き判断。風の強さと風の向き(流れ)を知る。

風の流れ。高気圧から低気圧に向けて流れる。高い処から低い処へ流れる。

しかし地球が自転しているので、右に向きを変える。

(例 北に高気圧、南に低気圧なら、東から西へ南東から北西へ、という風が吹く。)

低気圧とは、風が集まる処。下から上へ空気が流れる。反時計まわり。

高気圧とは、風が吹き出す処。上から下へ空気が流れる。時計まわり。

大気の安定とは、暖かい軽い空気が上に、冷たい重い空気が下にある状態。

低体温症になりやすい気象条件(気象遭難)は、強風暴風(平均15M/秒)・濡れ(雨・雪)・低温(気温が急激に下がる時)。全て重なる場合、温帯低気圧が発達しながら通過した日本海側。

引き返す判断は、1)森林限界 2)尾根に出たとき 3)主稜線にでたとき。

低体温症の気象遭難のパターン 1)気圧や台風が日本の東や北へ進む 2)目的の山のあたりで線が込み合う 3)陰地方や石鎚山では線が縦縞になる。

地図からみでのリスク回避は、沢の増水。強風から身を守る場所を探す。

雲を見て、気象の変化を知る。雲の種類 主要な雲約10種類、20種類以上ある。

天気図の見方(省略)

### (講義Ⅲ) 京都一周トレイルの生い立ちと見どころ。 実習場所 京北地区=北山杉の名所。

約40km 3日間でトレイルできる。5ルートの地図あり。どこからでもOK。

2016年3月27日 京都トレイル北山・西山大会 京都府山岳連盟へ問い合わせ。

(実習Ⅳ) 30日に3コースに分けて実施。飯盛山天童コースに参加。

- 1) ナビと読図の組み合わせ＝GPSと地形図の組み合わせ。  
＝緯度経度から地図上で、現在地を、特定する。(目盛つきスケール必要)
- 2) 傷病者の救護と移動&管理。どう処置して、どこへ運び、どこへ連絡するか？  
ケーススタディは、腕の骨折、足の骨折。セルフレスキュー(消防署勤務者)。  
声かけ。止血方法。固定の仕方。傷病者の起こし方、引きずる。背負う。  
ヒューマンチェーン。フィックスロープの張り方。結び方。



(まとめⅤ) 座学&実習を経て、班別協議と発表

- 1) 現場実習の必要性、重要性。＝山の現場であわてずにできるか？  
繰り返し行う。身に着ける＝特に中高年者。道具や機材は、あるか。
- 2) 啓蒙活動(中高年登山者＝特に単独登山者)  
ホームページ、チラシを作り山の専門店へ置く。若い人を引き込む。  
若い人に各種行事に参加させる。(登山教室、セミナー)
- 3) 座学と実習の組み合わせによる啓蒙。  
読図、安全登山研修、救急救命講習。AIDの扱い方。指導者の育成。
- 4) ニーズにあつた、レベル別コースを組む。  
若い層＝スポーツクライミング、沢登り。マウンテントレイル等。  
中高年＝登山、トレッキング、ハイキング
- 5) 看護師、消防士、医者、等の資格ある人の活用＝講師として。
- 6) 観天望気は、すぐには理解できない。経験が必要。

(全体のまとめ)

中高年登山者の遭難については、啓蒙が必要(座学と実務。)

啓蒙活動をする指導者の育成が急務の課題。共通の問題意識でした。

(感想)

- 1) 各県個々の山岳会の山登りに対する「ニーズ」が、当会のそれとは違う。  
規約も年齢からして違う団体も多い。当然レベルも違いそうだ。  
所帯の多い団体は、「ニーズ」別にコースを組んでいる処もあり。(大阪=労山、福岡)
- 2) 高齢化の波にどう対処するかについては、共通の悩みあり。
- 3) 山岳連盟についての理解が、出来ました。

(近藤 詞記)